

令和 8 年度 第 1 回 苫小牧市消費生活審議会開催結果（会議録要旨）

開催日時 令和 8 年 6 月 2 4 日（水） 午後 2 時 0 0 分～午後 3 時 0 5 分

開催場所 苫小牧市民活動センター 2 階研修室 C

出席者 【委員】

福本達也委員、邨山達哉委員、千葉武徳委員、今野佑亮委員、田中敏彦委員、田中一夫委員、横山誠一委員、坪田比斗美委員、石川史子委員（9 名出席、3 名欠席）

【市・事務局】

辻川市民生活部次長、吉田地域支援担当課長、疋田地域活動支援室副主幹、高尾地域活動支援室主査

1 開 会

2 部長挨拶（次長挨拶）

3 議題

(1) 令和 7 年度 消費者行政の取組状況について

資料により、事務局から説明を行った。

（邨山委員）

「消費者行政の概要」によれば、苫小牧市の多重債務相談件数は令和 5 年以降減少している。相談件数の減少について、相談体制の変更など何か要因があるのか。

（事務局 疋田副主幹）

相談体制に変更はない。

（事務局 辻川部次長）

令和 5 年度以降の多重債務相談件数の減少は、コロナ禍からの回復や雇用状況の改善が要因ではないかと推測している。

(2) 令和 8 年度 消費者行政の取組について

資料により、事務局から説明を行った。

(坪田委員)

5月30日にイオンモールで出張相談会を実施したとのことだが、今年度は他に同様の取組予定はあるのか。

(事務局 疋田副主幹)

5月の消費者月間の取組として実施した。今年度については、同様の取組予定はない。

4 その他

(1) 各委員からの事前意見への回答について

資料により、事務局から説明を行った。

(坪田委員)

先ほど（議題（1））の多重債務相談件数減少の話に関連して、例えば消費生活展などで多重債務相談のことをPRできないか。

(事務局 疋田副主幹)

消費生活展には、例年消費者センターとして出展している。PR方法については、今後検討する。

(事務局 辻川部次長)

消費生活に関する広報・発信力の強化が長年の課題であり、改善の必要性を認識している。今後も発信力の強化に注力していく。

(福本会長)

昨今の物価高騰に関する話題など、何かご感想やご意見はないか。

(横山委員)

物価高騰により、インク代や包装資材などの物件費が大幅に増加し、9ヶ月で5億円の費用増が見込まれる。企業はプライベートブランド商品の強化、チラシの見直し、デジタル化推進などで価格転嫁を避けつつ企業努力で対応しているが、メーカーからの納入条件変更や中小企業への影響は大きい。

一度上がった価格（卵、米、石油など）は人件費や物流費の高騰もあり、元に戻らないと予測している。

生活協同組合として、消費者の生活を守る使命に基づき、今後の対応策を慎重に検討・実行していく方針。

(田中（敏）委員)

漬物製造のメーカーである当社は、包装資材（ナフサ関連）や原材料費の高騰により経営に大きな影響を受けている。包装資材は既に10～30%の値上げが即時適用されており、供給不安から発注方法の見直しを余儀なくされている。

原材料費も上昇しており、商品価格の値上げは避けられないが、仕入れ先から追加の値上げ要請もあり、値上げの時期と幅の決定に苦慮している。

(田中（一）委員)

ナフサについて、ナフサはガソリンと同一工程で精製されるが、燃料と異なり、プラスチック材料であるため国の補助金や備蓄制度がない。この制度上の違いが課題であり、ナフサ不足の報道が消費者の買いだめ心理を刺激し、品不足を助長しているかも知れない。国によるナフサの管理や補助金制度があれば、現状のような混乱は抑制できた可能性がある。

(坪田委員)

ホームセンターに勤務しているが、ごみ袋の納品が滞ることがある。札幌市で指定ごみ袋の供給不足の話があるので、苫小牧市も同様の問題に直面するのではないかと懸念している。現在、職場でも指定ごみ袋に限らず、一般のごみ袋も店頭にほとんど在庫がない。

(横山委員)

米騒動では消費者の買いだめ行動により購入量が1.5倍以上に急増。

ごみ袋の件でも同様に、一時的な品薄に対し、市が代替品の使用を許可したことで消費者が殺到。人口規模の大きい都市では瞬時に品薄となり、周辺地域にも影響が波及した。

現状、札幌市のごみ袋供給は途絶えておらず、消費者が適正な量を購入すれば、品薄は回避できると考える。

(坪田委員)

苫小牧市のごみ袋の状況は。

(事務局 辻川部次長)

指定ごみ袋は、通常の供給量を確保しているが、必要以上の量を一度に購入されると品薄となり、必要な時に購入できなくなる可能性がある。

(福本会長)

テレビやインターネットの情報に影響され、必要以上の備蓄や買いだめをする傾向が見られる。市として、この状況に対し、何か情報発信や対策はあるか。

(事務局 辻川部次長)

指定ごみ袋に関しては、必要な量は確保している旨をホームページ等で発信しているが、消費者の不安な気持ちが優先されているようなので、今後、何か考えていく必要がある。

(坪田委員)

市民へ情報が伝わっていないのではないかと。私自身も、話を聞くまで知らなかった。

(事務局 辻川部次長)

発信力の重要性を改めて感じている。

(福本会長)

現場で「足りていますよ、大丈夫ですよ」と、少しでも具体的な状況を示すことができれば、安心感が得られると考える。そのような表示があれば良いのではないかと。ほかになれば、事務局から。

(事務局 吉田課長)

次回の審議会は、来年2月に開催予定。

5 閉会